

2021(令和3)年度 初任者 SD 研修(第2回)「3つのポリシーと質保証」 開催報告

日 時： 2021(令和3)年 10月7日(木)10:00～11:40
会 場： オンライン(Zoom)
企 画 統 括： 浅田 晋太郎氏(研修部会推進委員会 委員長、大阪女学院大学 常務理事・事務局長)
企画コーディネーター： 清水 栄子氏(研修部会推進委員会 委員、追手門学院大学 基盤教育機構/教育開発センター 准教授)
司 会 進 行： 宮原 秀明氏(研修部会推進委員会 副委員長、大阪学院大学 大学事務長代理)
講 師： 城戸 直也氏(研修部会推進委員会 委員、追手門学院大学 人事課 主任)
申 込 者 数： 13 大学 29 名(うち会員外 3 大学 3 名)
参 加 者 数： 13 大学 29 名(うち会員外 3 大学 3 名)
内 容 詳 細： 大学コンソーシアム大阪 HP 掲載の「シラバス」参照
実 施 結 果： 同上掲載の「PDF/参加者アンケート」参照
企 画・運 営： 大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員会

今年度の大学コンソーシアム大阪(以下、コンソ大阪という)の「初任者 SD 研修」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、オンライン(Zoom)で実施した。

冒頭に司会の宮原氏より、推進委員長 浅田氏の紹介、また浅田氏より開会挨拶と本研修の趣旨説明があった。



浅田委員長

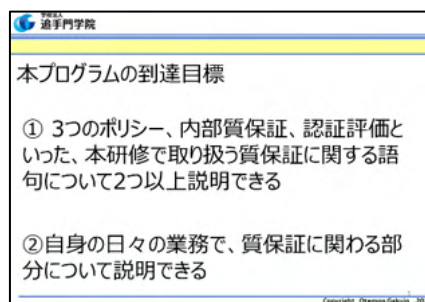
浅田委員長から「この 15 年位の間、評価ということが大学にとって自らの立ち姿を明確にしていくためのもので重要なものとなり、その中で IR が出てきた。

大学は研究と教育が大きな柱であり、教育では 3 つのポリシーは立ち姿の背骨のようである。今日をスタートに様々な法令を目にしたり、文部科学省からの通達を読むことで視界が広がるだろう。本研修で豊かな時間を過ごされるよう祈っている。」との言葉があった。

続いて、推進委員及び講師の挨拶、自己紹介があった。



城戸講師



到達目標

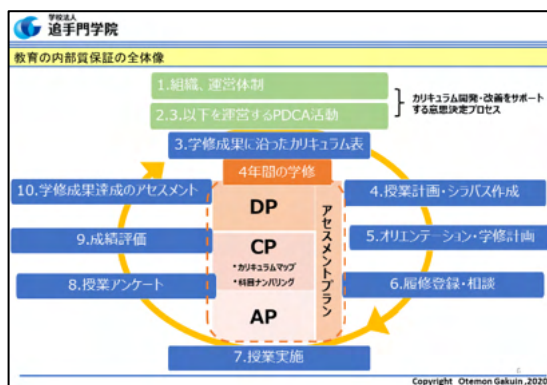
講義の導入で「今、大学に何が求められているのか」として、中央教育審議会の2018年の答申の紹介があり、学習者本位の教育への転換が求められていることと、教育の質の保証と情報公開が求められていることを学んだ。

グループワークでは、自己紹介を行った後に事前に調べた自大学の3つのポリシーを共有した。その後、他大学のポリシーを共有することで見えた自大学との共通点や相違点を共有した。

講義では、3つのポリシーの詳細を学び、大学教育の根幹となる3つのポリシーの重要性を学んだ。

次に、外部質保証のうちの認証評価制度と内部質保証について学んだ。

最後に研修で学んだ3つのポリシーと質保証を自身の業務にどのように繋げるかということで、自身の業務の質の向上が大学教育の質の保証の向上に繋がる重要性を学び、それを向上させるための一つの業務改善の手法としてEGRS(イクルス)の原則の紹介があった。



清水委員より、「今日の講義は、時間の関係もあり3つのポリシー、質保証についてコンパクトにまとめられたものだった。ぜひ自分でさらに調べてもらいたい。例えば自大学や他大学の評価結果等は公表されており、それを調べてみるのもよい。新たに知ったことをぜひ業務に活かしてほしい。また、どのように自分の業務に活かしていくかを考えてほしい。最後に学んだEGRSもぜひ実践してみしてほしい。実践した結果を城戸講師や事務局にフィードバックいただきたい。」との言葉があった。



清水委員

浅田委員長からは、「PDCAの次にC(コミュニケーション)を入れる方がいる。かなり深い考えでチェックした後にどうするのが一番大事なことで、コミュニケーションすることも大事である。教職協働がオフィシャルに認められており、職員としてのかかわりができることが極めて大事だということの認識がやっと広がった。若い時から問題意識を持ち続け過ごすことが自身の中で業務に対する思いが深まり、楽しくなるだろう。」との言葉があった。

最後に、受講者アンケートを実施し、研修を終了した。

後日、受講者には「受講証明書」が配付された。

以上